



## 生き生きと はつらつと 堂々と かがやく

学校長 堀部 尚久

青く澄み渡る高い空のもと、このところの冷え込みからも確実に冬の訪れが感じられる今日この頃です。早いもので、令和3年も、残すところひと月となりました。

さて、11月27日(土)の本校創立記念事業の一環として実施した「みんなかがやけ130 川上小創立記念フェスティバル」には、朝早くから、たくさんの保護者の皆様、地域の代表の皆様にご来校いただき、子どもたちの活動に、大きな賞賛と温かい励ましをありがとうございました。

子どもたちには、4月から今年は川上小学校にとって、創立130周年を迎える特別な年であるということ話し、それを受けて児童会代表児童が「つなごう！言葉と笑顔とやさしさを みんなかがやけ130」というスローガンを立て、児童実行委員会が中心となって、「川上小創立記念フェスティバル」が開催されました。

参観の枠組みとしては、会場の都合もあり、学年として取り組んできた教科の学習内容の発表・紹介を中心とした活動場面に限らせていただきましたが、教室・特別教室を活用して、子どもたちはこれまでの自分たちの学びにしっかりと向き合い、学びからの気づきや発見、こだわりや意見等、それぞれが準備や練習を重ねてきた方法によって、自分の言葉として発表したり、表現したりしていた姿が見られたことを嬉しく思います。

参観いただいた皆様からのアンケートにも、「どの学年も、子どもたちの意気込みが感じられた発表だった」「大人もたくさんいる中で、発表する姿が堂々としていて素晴らしかった」「一生懸命な様子や姿がよかった」「緊張する中での発表でも、主体的に動き、準備してきたことがよく伝わってきた」「生き生きと積極的に取り組む姿に感動した」「真剣に取り組んでいるのが伝わってきた」「子どもたちのアイデアと自主性が活かされていた」など、子どもたちの成長の様子が数多く記されていたことから、児童会スローガンを実現させた「みんなかがやく」素敵なフェスティバルになりました。

ファイナルセレモニーでは、子どもたちに、それぞれの学年の発表や活動に対するそのよさを話す時間がなく、週明けの朝会で学年の活動のよさを伝えました。どの学年の発表・活動にも言えることは、自分たちが学んで身に付けてきたことに「自信」がもてていたということです。限られた時間の中で苦労があっても、友達と力を合わせて工夫し、楽しみながら活動が創り上げられていたということです。こうした「一人ひとりが、しっかりと自分がやることに全力を挙げて努力する姿」「友達と力を合わせて、さらによいものを目指して創り上げていく姿」は、川上小学校の伝統として引き継がれ、時代を超えて繋がっているよさなのではないかと、今回のフェスティバルを見て思いました。クラスの友達や学年の仲間、そして全校の子どもたちが、気持ちを一つにして学びや生活を創り、みんなで学びや生活を磨き上げ、成長を続けていく場所が「学校」だということを、「みんなかがやけ130 川上小創立記念フェスティバル」が改めて教えてくれました。

教室の前の廊下には、これからなりたい自分について書かれたうちわを掲示しました。これからの学校生活に繋がるめあてでもあると言えます。そして、子どもたちが創り上げた、学校の誕生を祝うケーキには、子どもたち一人ひとりが、この川上小学校でできるようになったこと、分かるようになったことが、自分の言葉でメッセージとして飾られていました。ケーキに飾られた1年生から6年生までのメッセージを読むと、自分一人ができるようになったことから、段々と上学年になるに連れて、友達や仲間とのかかわりの中で身に付けてきたことが増えていました。学校が、1年生から6年生までの子どもたちが共に学ぶ場であるからこそ、一人ひとりが、自分の成長に気付くことが出来ているということを実感しました。

子どもたちには、当日の活動だけではなく、フェスティバルの大成功を大きな力として、これからも、みんなで次の10年につながる学校づくりをしながら、できることや分かること、思うことや考えることを増やしていくことを話して、子どもたちのフェスティバルのエンディングとなりました。

午後からは、横浜市教育委員会 小椋 歩教育次長、戸塚区役所学校連携・こども担当 金森 裕一課長、元川上地区連合町内会会長 田中 猛様をはじめ、近隣校・園関係者、保護者PTA代表、本校職員による、「川上小学校創立130周年感謝のつどい」を開催しました。第二部のアトラクションでは、6年生有志による「ソーラン節」が力強く披露されました。続いて、秋葉中学校吹奏楽部による演奏とお祝いのメッセージが映像で披露されました。最後に、本校特別合唱クラブ、特別合唱クラブOB・OG(中学1年生～大学4年生)による合唱が披露されました。「4月から私は社会人になります。これまでの学校生活で得た様々なことを思い出しながら新たな道へ進んでいきたいと思えます。」「これからも、10年、20年、30年と、川上小学校がさらなる素敵な学校として発展していくことを卒業生として願っています。」川上小学校を巣立ち、川上小学校を母校とする特別合唱クラブOG代表の言葉は、心に染み入る素敵な言葉でした。伝統を引き継ぎ、繋ぐとする想いが体育館の会場に余韻を残し、「感謝のつどい」も成功裏に終えることができました。

暮れに向かって、寒さも一段と増し、何かと気ぜわしくなる時期ですが、後期前半のまとめに向けた一日一日を大切にしながら子どもたちに寄り添っていきたく思います。